

第1回 Non-Border ボッチャ交流会

2019年2月11日、桐陰会館にて「第1回 Non-Border ボッチャ交流会」を開催し、約130名が参加しました。ボッチャはヨーロッパで生まれたパラリンピックの正式種目です。パラスポーツかつ共生型スポーツであり、近年は多くの団体や企業でも交流プログラムとして導入されています。本交流会はスポーツを通して年齢・性別・国籍・スポーツ経験などを超えて交流し、“ゆたかなくらしづくり”を目指す企画の1つとして開催しました。

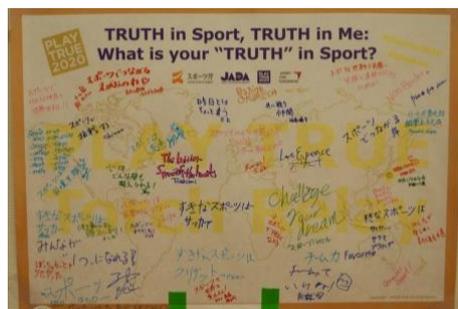
まず初心者などを対象としたボッチャ体験会から始まり、開会式では青年海外協力隊として活動中の浅見明子氏の協力のもとネパールのバクタプルという町の特別支援学校と中継をつなぎ、ネパール語でのカウントダウン「エク、ドゥイ、ティン」の掛け声に合わせて始球式を行いました。国境を越えて二地域が一体となり、Non-Border を肌で感じた瞬間でした。

続いて第一部の開幕です。参加申込単位で3~6名のチームを組み、6リーグに分かれ総当たりをし、その後の順位決定戦を経て、優勝3チームを決定しました。日頃から練習に励んでいるチームもあれば、今回が初めて・探り探り感触を確かめながら挑んでいるチームもありましたが、終始笑顔や歓声の絶えない、非常に和やかなひとときだったと思います。

また今回の交流会では、ボッチャイベントのほか主に3つの企画を行いました。1つめは団体紹介デスクの設置です。事前に募った7つの団体のデスクを会場内に設置し、活動紹介・チャリティー販売などを行いました。2つめはボッチャバーの設置です。収益の一部を上記の出展団体の活動への寄付とし、希望者にはドリンク購入時に寄付先を選んでいただきました。3つめには「i-PLAY TRUE トーチリレー」の実施。これは日本アンチ・ドーピング機構 (JADA) が展開するプロジェクトで、参加者から集まった「2020年以降に残したいスポーツのいいところ」や「交流会で感じたスポーツの価値」などのメッセージは、東京2020大会期間中にさまざまな形でお披露目予定です。その他、会場校である筑波大学附属中学校・高等学校の卒業生や学校の歴史を紹介する資料室を開放。大河ドラマ「いだてん」で話題の金栗四三氏・嘉納治五郎氏などの功績も展示されており、各々試合の合間に楽しんでいました。



ネパールでのボッチャ交流会の様子



参加者から寄せられたメッセージ



祈る姿勢は三者三様、
しかし想いは一つ。

そして第二部では当日くじ引きで決定した混合チームによるノックアウト戦が行いました。第一部で見られた盛り上がりそのまま、すぐにチームが溶け込んでゆく様子が印象的でした。固唾を飲んで見守るシーンやハイファイブで喜ぶシーン…数々の名場面が生まれたことでしょう。最後には会場全体が1つのコートに注目する中、白熱した決勝戦が行われました。個人の技量もさることながら、即席グループとは思えないチームワークを持つ両チーム。とても見応えのある試合でした。

閉会式では表彰のほか、ナイジェリア政府の草の根スポーツ開発局長や会場校代表の高校生、優勝チームのスピーチ等が行われ、優しい雰囲気の中、交流会は幕を閉じました。

日常生活における交友関係は何となく決まってしまう、限られた輪の中での交流を深めることが多いのが現状です。そんな中、今回の交流会は、まさにある共通の興味を持った人々が一堂に会し、スポーツを通じて Non-border を体感する場となりました。ゆたかなくらしづくりの1つのカタチとして、このようなきっかけづくりに大きな可能性を感じた一日でした。

<参加者からのコメント>

参加者の皆さんから多くのメッセージをいただきましたので、その一部をご紹介します。「性別国籍体格関係なしにできるボッチャ会場には色んな方がいて盛り上がりの中にも優しい空気を感じました。」「もっともっとボッチャの輪が世界に広がりますように…」「あれだけ『えーめんどくさい』と言っていた中1と小5の子どもを連れ出したこと自体が奇跡だったのですが、帰るときに『また参加したい』と言うのを聞いて、連れてきて良かったなあと思いました。」「Non-Border ボッチャ交流会で、ボッチャデビュー。想像以上に楽しくて、本当に本当に年齢・性別・障害・言語などの壁を感じることなく、楽しめました。」…等々。また、第一部優勝チームで職場の皆さんで参加された、チーム総スポさんからは「ボッチャは幅広く対等にでき、オフィス内の会話も盛り上げられる。全国に広げたい。」という声をいただきました。



第2部 優勝チームの皆さん



新たな交流の数々

なお、運営にあたりましては豊島区スポーツ推進委員の皆様をはじめ、賞品を提供いただいた株式会社セノ様など多くの方々にご協力いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。第2回もどうぞ期待ください。



スポーツの未来を創る「フィルターポーズ」での集合写真